

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 5 月 19 日現在

機関番号：14301

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2010～2013

課題番号：22730353

研究課題名(和文)負債の公正価値測定と報告企業の信用状態の変化に関する基礎研究

研究課題名(英文)Basic Research in Fair Value Measurement of Liabilities and Changes in Own Creditworthiness

研究代表者

草野 真樹(Kusano, Masaki)

京都大学・経済学研究科(研究院)・准教授

研究者番号：50351440

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円、(間接経費) 720,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、負債の公正価値測定と報告企業の信用状態の変化を中心に、公正価値会計が抱える問題点について検討することである。本研究の主要な成果は、次のとおりである。(1) 理念型の公正価値会計を含め、IASBとFASBが提案した方法では、金融負債の公正価値測定の問題点を解決することは難しい。(2) 貸借対照表を重視する会計モデルは、意思決定支援機能と契約支援機能を損なう可能性がある。(3) 公正価値会計は、銀行の行動に影響を及ぼし、景気変動増幅効果をもたらす可能性がある。これらの結果は、資産と負債を公正価値で測定するストック重視の会計が会計情報の有用性を損なう可能性を示している。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to investigate issues in fair value accounting by focusing on fair value measurement of liabilities and changes in own creditworthiness. The main results of this study are as follows. (1) It is difficult for the ideal fair value accounting and the accounting treatments proposed by the IASB and the FASB to solve issues in fair value measurement of financial liabilities. (2) The accounting model that focuses on the balance sheet would have negative effects on the valuation role and the contracting role of financial reporting. (3) Fair value accounting would lead banks to alter their behavior and cause procyclicality. These results indicate that stock-based accounting that measures assets and liabilities at fair value impairs the usefulness of accounting information.

研究分野：会計学

科研費の分科・細目：経営学・会計学

キーワード：会計学 負債 金融商品 公正価値 信用リスク スtock重視の会計 混合測定アプローチ

1. 研究開始当初の背景

近年、国際会計基準審議会 (IASB) と米国の財務会計基準審議会 (FASB) は、会計基準のコンバージェンスを推進する中で、資産と負債を公正価値で測定する会計基準を公表してきた。かかる典型的な事例として、金融商品の会計基準が挙げられる。IASB と FASB は、2005 年 10 月に金融商品の全面公正価値会計の導入を長期的な目標として定め、審議を進めてきた。

金融商品の全面公正価値会計は、以前より会計基準設定機関によって提案されてきたが、経営者や銀行監督・規制機関 (中央銀行) を中心に反対されてきた。金融商品の公正価値測定の拡大が反対されてきた 1 つの理由として、金融負債の公正価値測定が挙げられる。とくに報告企業の信用状態が悪化したときに金融負債を公正価値で測定すれば、金融負債の測定額が小さくなり、利益が計上されるという直感に反した事象が生じる。このことは、会計基準設定機関において対処すべき難題の 1 つである。金融負債の公正価値測定は、重要な研究課題である。

近年、金融商品、年金債務、および資産除去債務を中心に負債の公正価値測定について研究が行われ、国内外において、その成果は蓄積されつつある。ところが、報告企業の信用状態 (信用リスク) に着目した負債の公正価値測定は、国内外において研究成果が十分に蓄積されているとは言い難い。

本研究の申請者である草野は、金融商品の公正価値測定を検討素材として、業績報告について研究を進め、その成果として、2005 年に『利益会計論 公正価値評価と業績報告』を出版した。その後も、金融商品の公正価値会計に関連する研究報告を国内外で行い、金融負債の公正価値測定を中心に論文を公表してきた。ところが、負債の公正価値測定と報告企業の信用状態の変化を巡る諸問題について、十分に検討することが出来ていなかった。そこで、研究を展開かつ深化させるために、本研究では、報告企業の信用状態の変化に着目して、公正価値会計が抱える問題点について検討する。

2. 研究の目的

本研究の目的は、負債の公正価値測定と報告企業の信用状態の変化を中心に、公正価値会計が抱える問題点について検討することである。かかる検討を通じて、公正価値会計に内在する特性を明らかにする。

(1) 負債の公正価値測定と報告企業の信用状態の変化に関する理論分析

負債の測定に関する研究は、1970 年代頃より本格的に行われ始め、近年、オプション理論を援用した研究成果も公表されている。そこで、まず先行研究を分析することによって、負債の公正価値測定を巡る議論を整理する。次に、金融負債を素材として、負債の公

正価値測定に関する代替的な処理方法について比較検討を行い、それぞれの処理方法の特徴について考察する。さらに、金融負債のみならず、他の関連領域に検討対象を拡張することによって、負債の公正価値測定と報告企業の信用状態の変化について幅広く検討する。かかる検討を通じて、公正価値会計に関する特性を抽出することが期待できる。

(2) 公正価値会計が財務会計の機能に及ぼす影響に関する分析

1990 年以降、公正価値の概念と適用時点、さらに IASB と FASB のコンバージェンスの中で、公正価値の適用対象が拡張している。このように、近年、公正価値評価は拡大しているが、公正価値会計は財務会計の機能にどのような影響を及ぼすのであろうか。そこで、今日、財務会計の機能として期待される意思決定支援機能と契約支援機能に照らして、公正価値会計が財務会計の機能に及ぼす影響について分析する。さらに、金融危機を契機として、公正価値会計と金融の安定性 (景気変動増幅効果) の関係について議論されている。そこで、公正価値会計と景気変動増幅効果の関係について分析する。かかる検討を通じて、公正価値会計に関するインプリケーションを抽出することが期待できる。

3. 研究の方法

本研究の目的を達成するために、以下のよう

(1) 公正価値測定に関するプロジェクトの整理・分析

IASB と FASB は、会計基準のコンバージェンスを推進するために、多くのプロジェクトを遂行している。たとえば、本研究の研究対象と密接に関連するプロジェクトの中で、概念フレームワークについて、検討が進められている。IASB と FASB が進めるプロジェクトの動向は、本研究に重要な影響を与えるので、関連する資料・文献を渉猟しながら、当該プロジェクトの特徴を明らかにする。

(2) 負債の公正価値測定と報告企業の信用状態の変化に関する理論分析

負債の測定に関する研究は、1970 年代頃より本格的に行われ始めた。まず、先行研究をサーベイすることによって、負債の公正価値測定を巡る賛否両論とその根拠について整理する。

次に、金融負債を素材として、負債の公正価値測定に関する代替的な処理方法について比較検討を行い、それぞれの処理方法の特徴を明らかにする。その際に、オプション理論を援用した処理方法 (金融負債の公正価値を、契約上のキャッシュ・フローを無リスク利率で割り引いた部分とデフォルト・プットに区別する方法) も検討の対象に含め、代替的な処理方法が期間損益計算にどのよう

な影響を与えると考えられるのかについて、構造分析を行う。

(3) 公正価値会計が財務会計の機能に及ぼす影響に関する分析

今日、財務会計の機能として、意思決定支援機能と契約支援機能が指摘される。公正価値会計が財務会計の機能に及ぼす影響を分析するために、実証研究のサーベイを行う。意思決定支援機能と契約支援機能を分けて、公正価値会計がそれぞれの機能に与える影響について検討する。さらに、公正価値会計が景気変動増幅効果を促進するの否かを分析し、公正価値会計と金融の安定性の関係について検討する。

4. 研究成果

本研究の目的は、負債の公正価値測定と報告企業の信用状態の変化を中心に、公正価値会計が抱える問題点について検討することである。4年間の研究期間(2010年度~2013年度)で、14本の論文(雑誌論文、図書の分担執筆、ワーキングペーパー)、国内外で13の学会報告を行った。本研究の主要な成果は、以下のとおりである。

(1) 負債の公正価値測定と信用状態の変化

報告企業の信用状態の変化を考慮して、金融負債を公正価値で測定する場合、「負債のパラドックス」が生じることが懸念される。「負債のパラドックス」を解決する1つの方法として、貸借対照表の純資産簿価で株主価値を表示する理念型のストック重視の会計を採用することが考えられるが、現行の財務報告の目的に抵触するために採用できない。そこで、オプション理論を援用した先行研究で提案された方法やIASBやFASBで提案された方法によって、「負債のパラドックス」を解決できるのかについて検討したところ、いずれの方法を採用しても難しいことが明らかとなった。

(2) スtock重視の会計と会計情報の有用性

近年、IASBとFASBは、会計基準のコンバージェンスを推進する中で、公正価値測定の拡張とオンバランス項目の拡大を通じて、貸借対照表を重視する会計モデルを採用する傾向にある。ストック重視の会計が採用されたとしても、ストック情報の意思決定有用性が改善しない可能性があり、その一方で利益情報(フロー情報)の有用性が低下するために、全体として、意思決定支援機能が損なわれる可能性がある。このことは、貸借対照表を中心とするストック重視の会計が投資意思決定に有用な会計情報を提供することが期待できないことを意味する。

(3) 公正価値会計が財務会計の機能に及ぼす影響

財務会計の機能を意思決定支援機能と契約支援機能に分けて、公正価値会計が各々の機能に及ぼす影響について分析した。まず、公正価値測定の拡大が契約支援機能に及ぼす影響について検討した。公正価値測定の拡大は、会計情報の契約上の有用性を低下させ、契約支援機能にマイナスの影響を与える可能性があることを示した。次に、認識と開示の差異が財務会計の意思決定支援機能に及ぼす影響について検討した。その結果、現時点では、意思決定有用性の観点から、認識と開示の間に差異があるとは必ずしも明確に言うことはできないことが分かった。

(4) 公正価値会計と景気変動増幅効果

公正価値会計が景気変動増幅効果をもたらしたの否かを分析するために、金融危機前の好況期に焦点を当て分析した。証券化会計の売却会計は、公正価値会計と同じ利益効果を有することから、金融危機前に公正価値会計の代替として機能していたと考えられる。そこで、証券化会計と景気変動増幅効果の関係について検討した。売却会計は、好況期に自己資本比率を大きくするため、銀行の融資行動に影響を及ぼし、景気変動増幅効果を促進したと考えられる。このことは、公正価値会計が景気変動増幅効果を促進させることを示唆する。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計11件)

草野真樹「負債の公正価値測定と報告企業の信用状態の変化」『日本簿記学会年報』第25号、2010年、153-160頁、査読有。

草野真樹「金融危機後の公正価値測定の動向とその特徴」『経済論叢』第184巻第3号、2010年、95-111頁、査読無。

http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/178134/1/kronso_184_3_95.pdf

草野真樹「金融負債の公正価値測定の動向と報告企業の信用状態の変化」『会計』第178巻第4号、2010年、58-70頁、査読無。

草野真樹「証券化取引の動機と帰結」『会計』第180巻第6号、2011年、84-96頁、査読無。

草野真樹「会計モデルの変容と会計情報(1)」『会計』第181巻第5号、2012年、15-26頁、査読無。

草野真樹「会計モデルの変容と会計情報(2)」『会計』第181巻第6号、2012年、99-111頁、査読無。

Masaki Kusano, "Does the Balance Sheet Approach Improve the Usefulness of Accounting Information?" *The*

Japanese Accounting Review, Vol. 2, 2012, pp. 139-152, 査読有。
DOI: 10.11640/tjar.2.2012_139
Masaki Kusano, "Fair Value Accounting and Procyclicality: Accounting for Securitization," *Corporate Ownership & Control*, Vol. 11, Issue 1, 2013, pp. 535-555, 査読有。
草野真樹「IASB 討議資料における利益と測定」『企業会計』第 66 巻第 1 号, 2014 年, 150-157 頁, 査読無。
草野真樹「公正価値評価の拡大と会計の契約支援機能」『金融研究』第 33 巻第 1 号, 2014 年, 61-110 頁, 査読無。
<http://www.imes.boj.or.jp/research/abstracts/japanese/kk33-1-3.html>
草野真樹「ストック重視の会計と会計情報の有用性 認識対開示を巡る実証的評価」『同志社商学』第 65 巻第 6 号, 2014 年, 16-39 頁, 査読無。

〔学会発表〕(計 13 件)

草野真樹・佐久間義浩・角ヶ谷典幸「リース会計の方向性と 3 つのオンバランス効果」日本会計研究学会第 69 回全国大会, 2010 年 9 月 10 日, 東洋大学。
Noriyuki Tsunogaya, Yoshihiro Sakuma and Masaki Kusano, "Lease Capitalization and Its Effects on Japanese Listed Companies," 11th Asian Academic Accounting Association, 29 November, 2010, Shangri-la Hotel Bangkok, Bangkok, Thailand.
Masaki Kusano, "Fair Value Accounting and Procyclicality: Accounting for Securitization," 2011 CAAA (Canadian Academic Accounting Association) Annual Conference, 28 May, 2011, Hilton Toronto, Toronto, Canada.
Masaki Kusano, "Fair Value Accounting and Procyclicality: Accounting for Securitization," 2011 AAA (American Accounting Association) Annual Meeting, 8 August, 2011, Sheraton Denver Downtown Hotel, Denver, the U.S.A.
Masaki Kusano, Yoshihiro Sakuma and Noriyuki Tsunogaya, "Economic Consequences of the New Lease Accounting Standard in Japan," 12th Asian Academic Accounting Association, 10 October, 2011, Inna Grand Bali Beach hotel, Bali, Indonesia.
草野真樹「会計モデルの変容と会計情報」日本会計研究学会第 61 回関西西部会, 2011 年 12 月 10 日, 兵庫県立大学。
Masaki Kusano, Yoshihiro Sakuma and Noriyuki Tsunogaya, "Economic Consequences of the New Lease

Accounting Standard: Evidence from Japan," 2012 CAAA (Canadian Academic Accounting Association) Annual Conference, 1 June, 2012, Delta Prince Edward Hotel, Charlottetown, Canada.
Masaki Kusano, "Fair Value Accounting and Procyclicality: Accounting for Securitization," 2012 Annual Summer / International Conference - Korean Accounting Association, 21 June, 2012, Sol Beach Hotel and Resort, Yangyang, Korea.
Masaki Kusano, Yoshihiro Sakuma and Noriyuki Tsunogaya, "Economic Consequences of the New Lease Accounting Standard: Evidence from Japan," 2012 AAA (American Accounting Association) Annual Meeting, 6 August, 2012, Gaylord National Hotel and Conference Center, Washington D.C., the U.S.A.
Masaki Kusano and Masatsugu Sanada, "Financial Crisis and Legitimacy of Global Accounting Standards," 2013 EAA (European Accounting Association) Annual Congress, 7 May, 2013, Paris-Dauphine University, Paris, France.
Masaki Kusano and Masatsugu Sanada, "Financial Crisis and Legitimacy of Global Accounting Standards," 7th Asia Pacific Interdisciplinary Research in Accounting Conference, 28 July, 2013, Kobe Convention Center, Kobe, Japan.
Masaki Kusano and Masatsugu Sanada, "Financial Crisis and Legitimacy of Global Accounting Standards," 2013 AAA (American Accounting Association) Annual Meeting, 5 August, 2013, Hilton Anaheim, Anaheim, the U.S.A.
Masaki Kusano, "Fair Value Accounting and Procyclicality: Accounting for Securitization," International Conference, Financial Distress: Corporate Governance and Financial Reporting Issues, 17 October, 2013, Link Campus University, Rome, Italy.

〔図書〕(計 1 件)

草野真樹「財務諸表における測定 公正価値測定の拡張と 2 つの混合測定アプローチ」藤井秀樹編『国際財務報告の基礎概念』中央経済社, 2014 年, 133-159 頁。

〔その他〕

草野真樹・佐久間義浩・角ヶ谷典幸「リース会計の方向性と 3 つのオンバランス

又効果」京都大学大学院経済学研究科
Working Paper No. J-82 , 2010 年。
[http://www.econ.kyoto-u.ac.jp/~chou
sa/WP/j-82.pdf](http://www.econ.kyoto-u.ac.jp/~chou
sa/WP/j-82.pdf)
Masatsugu Sanada and Masaki Kusano,
“The Legitimacy of Global Accounting
Standards in the Wake of the Financial
Crisis,” Working Paper, 2014.
[http://papers.ssrn.com/sol3/papers.
cfm?abstract_id=2382911](http://papers.ssrn.com/sol3/papers.
cfm?abstract_id=2382911)

6 . 研究組織

(1)研究代表者

草野 真樹 (Masaki Kusano)
京都大学・経済学研究科・准教授
研究者番号 : 50351440

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者

なし